

鷗外からの感謝状

浄法寺の御山には「土踏まずの丘」という特別な場所があります。古来より聖地として崇められ、不浄なものゝの進入を禁じてきました。「尊いお経を埋めた場所」「高貴な人物の陵墓」などとされた時期もありましたが、近年の調査で「経塚」であったことがわかっています。

さて、話はさかのぼること大正5年。この丘の発掘調査を長年の夢としていた人物がいました。元浄法寺村長で、郷土史に造詣の深い赤塚治持です。彼は協力者を探していたのかもしれませんが、禁忌に触れるとも考えられる「土踏まずの丘」の調査には、学術的な考えから賛同してくる、強力な後ろ盾が欲しかった

市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

(23)

どき どき
たいむとらべらー



ことでしょう。

そうした折、ある人物との出会いが彼の夢を現実にしました。巡回講演のために浄法寺を訪れていた、東京帝国大学教授・新渡戸稲造です。新渡戸は赤塚の語る丘の伝承に興味を持ち、その場で彼の考えに賛同したのでした。

二日間にわたる調査の結果は、詳細な報告書として残されました。丘が壇状に作られていること、平坦な頂上には小石が敷かれ、壺や刀が出土したと。スケッチや図面も添えられて、文面からは現場の様子が良く伝わってきます。

その後、出土品の一部は宮内省を経て東京の帝室博物館（現東京国立博物館）に収められ、大正9年、時の帝室博物館総長・森林太郎から、感謝の意を込められた受領書が届きました。

さてこの人物、総長・森林太郎とは。実は明治の文豪・森鷗外の本名なのです。

左記之物件東京帝室博物館御寄贈相成御厚意
致謝候水々保存本館ノ資料ノ可保候也
大正九年五月廿五日

帝室博物館総長 森林太郎

天台寺住職 亮忠殿

一壺 陶製 高約15cm 口径約5cm 底径約4cm 壺口縁部
一壺 陶製 高約15cm 口径約5cm 底径約4cm 壺口縁部
一壺 陶製 高約15cm 口径約5cm 底径約4cm 壺口縁部
一壺 陶製 高約15cm 口径約5cm 底径約4cm 壺口縁部
以上 計四點

森鷗外から天台寺住職あてに届いた受領書

こみゅにTeaたいむ

32杯目

豪華な郷土芸能祭

イベントなどでよく見かける郷土芸能は、何百年も昔の踊りの再現です。舞、衣装、面などで地域の歴史と伝統を伝えてくれます。その各地域の歴史と伝統、また、昔から伝えられてきたメッセージを『第27回二戸市郷土芸能祭』で感じてみませんか？

今回は『第36回二戸地区郷土芸能発表会』も合同で行われ二戸市はもちろんのこと一戸町、軽米町、九戸村の神楽、さらに特別出演団体として青森県立田子高等学校郷土芸能部が出演します。この郷土芸能部は、今年度の全国高等学校総合文化祭三重大会郷土芸能部門で優良賞を受賞した名誉ある部です。

各地域、各市町村の郷土芸能が一度に見られる機会ですので、ぜひご覧ください。

【第36回二戸地区郷土芸能発表会兼第27回二戸市郷土芸能祭】

日時 2月14日（日）午前10時開演

場所 二戸市民文化会館 大ホール

入場料 無料

主催 二戸地区郷土芸能発表会実行委員会、二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会

出演団体など

<第27回二戸市郷土芸能祭>午前10時～

金田一大神楽保存会／下斗米山伏神楽保存会／坂本七ッ物保存会／大森大神楽保存会／天台寺舞楽保存会／杉沢えんぶり保存会／深山神社神楽保存会／呑香稲荷神社神代神楽保存会／上米沢鹿踊り保存会／武内神社神楽保存会（順不同）

<第36回二戸地区郷土芸能発表会>午後1時30分～

青森県立田子高等学校郷土芸能部（田子町）／中山神楽保存会（一戸町）／瀬月内神楽保存会（九戸村）／山田獅子踊り保存会（軽米町）／駒ヶ嶺新山神楽保存会（二戸市）／金田一神楽保存会（二戸市）（順不同）



金田一大神楽保存会の発表

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線654）まで